

熊野花図鑑

POWER OF CULTURE
熊野学研究委員会

太平洋に突き出た紀伊半島南部の熊野地方は、黒潮の影響を直接受け、冬でも暖かく、平地で雪を見ることはめったにありません。また、年間降水量が3,000mmを超え、日本屈指の多雨地域です。温暖多雨の気候が植物の生育に大きな影響を与え、多種多様な植物の生育を可能としているのです。熊野の山は一年中深い緑に覆われ、真冬でも花が絶えることはありません。

紀伊半島の森林

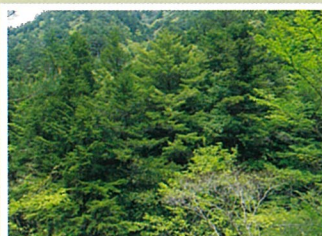
紀伊半島南部の山地には、近畿地方で唯一、トウヒなどの針葉樹林帯が発達しています。標高1,500m付近ではブナなどの夏緑樹林が、標高1,000m付近では中間温帯林のモミ、ツガ林が見られます。熊野地方には、標高1,000mを超えるような高い山はなく、ツブラジイやスダジイなどの照葉樹林が発達しています。



トウヒ林



ブナ林



モミ・ツガ林



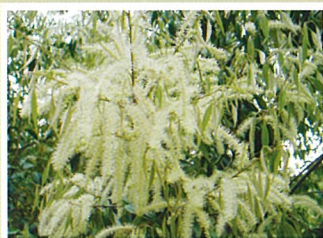
ツブラジイ林

照葉樹林の樹木

照葉樹林の樹木の多くは春から初夏にかけて花を咲かせます。3月末にイスノキやタブノキが開花し、5月初めにシイの花が一斉に咲いて山肌を白く染めます。ミミズバイ、ホルトノキは7～8月の真夏に、リンボクやバクチノキは9月から10月の秋に花を咲かせます。



イスノキ



ツブラジイ



ミミズバイ



ホルトノキ



バクチノキ



トキワガキ



カギカズラ



タチバナ

照葉樹林林床の植物

熊野地方は内陸部から海岸まで照葉樹林が広がります。林床の様子も乾燥した尾根から湿潤な谷筋、さらに海岸林と多様な環境に多様な植物が生息しています。



ノシラン



ヒロハテショウソウ



クサナギオゴケ



カキノハグサ

着生ランとラン科植物

ラン科植物は温暖で多湿な気候を好み、熊野地方には多くのラン科植物の生育が確認されています。



セッコク



ムカデラン



カシノキラン



オサラン



クリシマエビネ

海岸植物

磯浜、礫浜、砂浜、それぞれに適応した海浜植物が見られます。



ルリハコベ



ハマニガナ

亜熱帯性の植物

熊野地方には、温暖な時代に南方から分布を広げてきた植物のうち、氷河期の寒さに耐えて生き残ったと思われる亜熱帯性の植物が多く生息しています。それらの多くは、熊野地方が北限の自生地となっています。



アオノクマタケラン



ノアサガオ



オオタニワタリ



シマエンジュ



リュウキュウマメガキ



シラタマカズラ



シマサルナシ



ヤクシマアカシュスラン

亜熱帯性のシダ植物

熊野地方の温暖で多湿な気候は、シダ植物にとって、絶好の生育地となっています。



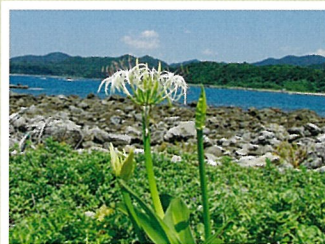
ヤワラハチジョウシダ



スジヒトツバ

暖温帯性の植物

陽当たりのよい海岸段丘の斜面や、それに続く礫浜には潮風に強い植物が育ちます。



ハマオモト



タイキンギク